

入館1～3年目の職員に聞きました。このほかにも、国立国会図書館ホームページ「採用情報」では、採用試験合格者（採用予定者）の合格体験記・アンケート結果も公開しています。ぜひご覧ください。

志望動機／国立国会図書館に決めた理由

立法府の組織として、国政審議に関する調査に携わることができる点、情報整備の視点から社会に貢献できる点に関心をもちました。

立法府のプレーンとして働きたいと思ったから。

学生時代に蔵書検索システムやデジタルアーカイブに助けられ、自分も誰かの研究に貢献できたいいなと思うようになりました。

文化的資産を未来に残すという仕事に魅力を感じました。

日本の歴史や文化に貢献できる職業だと思ったから。

情報への自由なアクセスを支えるという図書館の役割に強い興味を抱くようになり、その中でも国民にサービスを提供し、日本全国の図書館サービスを支えている国立国会図書館の仕事に興味を持ちました。

様々なバックグラウンドを持つ人々が活躍していることを知って関心をもちました。

やりがいを感じた時

国会議員等からの調査依頼に回答する仕事をしていて、自分の調査結果が国会で言及されたとき。

書誌データ作成を通して様々な分野の図書に触れることができ、自分自身の知識の世界が広がっていくことを実感したとき。

利用者への検索支援やレファレンス対応をして「ありがとう」と言われたとき。小さなことで人の役に立つ仕事ができているのだと感じます。

1年以上準備してきた業務システムのリニューアルが無事に完了して、「以前より分かりやすくなった」と言ってもらえたときはホッとしました。

関西館で図書館員向け研修を担当していた頃、参加者から「自館ではできないので国立国会図書館が頼りだ」と言ってもらえて、責任とやりがいを強く感じました。

「昔読んだあの本を探している／もう一度読みたい」というお問合せがあるときに、子どもの本が持つエネルギーと国立国会図書館に寄せられている信頼を実感します。

入館して驚いたこと

想像していたよりも、入館前に身につけた知識をいかす場があること。例えば語学能力が国会議員向けの調査サービスにいきる機会がたくさんあります。

やってみたいこと改善したいことを自由に提案できる環境であること。特に係内での意見交換が活発で驚きました。

広報担当として、早い段階から取材対応や見学の案内、関係機関会議への参加等を任せてもらえることが多いと感じました。

国立国会図書館を志望する方へ

好奇心旺盛な人にとっては、新しいことを学ぶ楽しさを感じられる職場です。学んだことをいかして誰かの役に立つ喜びを実感することもできる職場でもあります。

向学心にあふれた職員の多い職場です。

利用者サービスから国会議員向け調査サービス、総務（一般事務）に至るまで様々な業務があり、誰でもそれぞれ自分に合った仕事が見つけれられるのが国立国会図書館の魅力だと思います。様々な業務があるので、幅広く興味を持つ心が大切だと思います。

国立国会図書館職員に求められる「専門性」

国立国会図書館ではあらゆる分野の資料・情報を扱っています。幅広い領域にわたる国政課題の分析には、科学技術や統計を含む様々な知識が必要とされます。また、社会科学、人文科学、自然科学の様々なテーマについてレファレンス回答や資料の紹介を行うためには、各分野の専門知識を持つことが求められます。近年は、電子情報サービスにも注力しているため、ITに関する知識をいかす場も増えています。

そのため、国立国会図書館では、どのような分野であっても、大学等で培った専門性をいかす機会を得られます。一方で、担当業務に合わせて新たな専門性を高める必要もあるので、研修に参加したり自主的な勉強会を開催したりするなど、知識の習得に積極的な職員も多くいます。

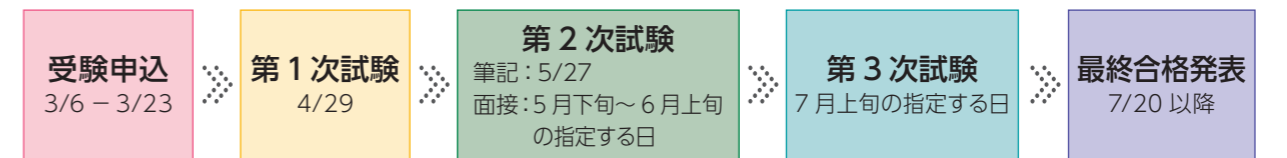
採用試験

令和6年度の試験日程は令和5年度より1か月程度早まります。最新の情報は、国立国会図書館ホームページの「採用情報」でご確認ください。<<https://www.ndl.go.jp/jp/employ/>>



国立国会図書館の職員は、独自の採用試験により採用しています。最終合格者は即採用予定者となり、官庁訪問に当たるものではありません。また、受験に当たって、司書資格は必要ありません。障害のある方に対しては、受験上の配慮を行います。総合職試験、一般職試験（大卒程度）に加えて専門職の試験を実施する年度もあります。総合職試験受験者については、総合職試験に不合格となった場合に、一般職試験（大卒程度）の受験者としての取扱いを受けることができる特例制度を利用することができます。

■ 試験日程（令和5年度実績）



■ 試験方法（令和5年度実績）

	総合職試験	一般職試験（大卒程度）
第1次試験	教養試験（多肢選択式・共通）	
第2次試験	英語試験（多肢選択式・共通）	
	専門試験（記述式・共通）	
	専門試験（記述式）	—
	小論文試験	—
	人物試験（個別面接）	
第3次試験	人物試験（個別面接）	

※専門試験科目は、受験申込時に以下から1科目を選択。法学（憲法、民法、行政法、国際法から受験時に2分野選択）、政治学、経済学、社会学、文学、史学（日本史、世界史から受験時に1分野選択）、図書館情報学、物理学、化学、数学、工学・情報工学（工学全般、情報工学から受験時に1分野選択）、生物学。

■ 採用実績

	年度	H31	R2	R3	R4	R5
総合職試験	申込者数	401 (190)	458 (219)	363 (189)	384 (199)	428 (195)
	採用者数	4 (2)	3 (1)	3 (2)	3 (2)	3 (2)
一般職試験 （大卒程度）	申込者数	756 (438)	694 (414)	507 (322)	666 (418)	682 (434)
	採用者数	17 (11)	14 (8)	13 (7)	13 (7)	19 (12)

※一般職試験（大卒程度）の採用者には、総合職試験特例申込者を含む。

※（ ）内は女性の数。

※令和5年度の採用者数は令和5年11月時点の採用予定者数。